



作業科学とプレイバックシアター

保健福祉学部 作業療法学科
教授 吉川ひろみ（よしかわひろみ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3404号室
Tel 0848-60-1236 Fax
E-mail yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 作業科学，作業療法学，生命倫理学

キーワード： 作業遂行評価，プレイバックシアター

● 主な取り組み・活動

作業療法士として附属診療センターで，日常生活の中の作業がうまくできるように，作業療法をしています。

服の脱ぎ着，料理や掃除などを，科学的に測定する方法について，教育や研究をしています。学生の教科書として「COPM・AMPS スターティングガイド」（医学書院）などを執筆しました。COPM（シーオーピーエム）は面接で，AMPS（アンプス）は観察で行われる作業療法の評価法です。

日常生活の作業について研究する学問分野である作業科学の発展に貢献したいと考えています。作業科学は，1990年代に誕生した学問で，仕事や趣味といった多様な作業の意味や機能を研究します。『『作業』って何だろう 作業科学入門』（医歯薬出版）という本を2008年に執筆し，2017年には第2版を出版しました。

大学内で倫理研究会を主宰し，毎年1回セミナーを開催しています。倫理教育について研究する中で，プレイバックシアターという即興劇に出会い，2014年に「劇団しましま」を設立しました。プレイバックシアターは，1970年代に誕生した普通の人の日常の語りを，その場で演じるものです。芸術性と社会性を備え，教育や治療上の効果も期待できます。2017年には，アジア太平洋プレイバックシアター大会を，三原キャンパスで開催しました。

● 今後の目標・抱負

作業科学の知見を生かした作業療法の発展に貢献したいと考えています。リハビリテーションの中の作業療法しか知らない，作業療法と理学療法の区別がつかない，という人が多い状況を変えるために，作業療法の専門性を広めていきます。

プレイバックシアターは，企業など組織内でのコミュニケーション改善や，グループ内でのリーダーシップ養成にも使われています。社会性を高める研修としてプレイバックシアターを活用してほしいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

自分の日常の作業を振り返ることにより，今までの人生で大切にしてきたことは何なのか，これからどんな作業をして生きていきたいのかを見極めることができると考えています。こうした作業を中心として物事を見る視点を作業レンズと呼んでいます。地域・社会の皆さんと連携して，作業レンズを紹介し，活用していただける機会を創りたいと思います。プレイバックシアターは，作業レンズを磨くことにもなるでしょう。

● これまでの連携事例・実績

広島県作業療法士会等の研修会講師

小中学校，病院，当事者団体等でのプレイバックシアターのワークショップや公演